新講談（宮本武蔵茶店の一席）

剣豪とぼたもち

水木しげる

主人
俺が先では
なかったか
……
おれは
おごそかに質問
した

へえ
でも あの方たちが……

でも
あの方たち
とはなんだネ

おらたちの
ほうが
先に注文したんじゃ
ねえか
武士の
くせに
しつこいナ

おれは我慢した
過去の英雄 豪傑は
みだりにおこらないと
ものの本にも書いてあ
った……
そして 間もなく……

もち屋の主人は
ぼたもちを俺のほうに
もってこようとした……
その時……
おい
おい
親父
おらたちを
無視する
気か

おいら
三人前
たのんだんだ

まだ 一皿
しかもって
きてねえ
じゃねえか

ムシャ
ムシャ
ムシャ
あっ
それは
……

俺はムカムカッときた
ね
ぼたもちを期待して 胃
液はすでに腹の中に
もたついていたからだ
いいかげんに
しないかーッ

雲助といい争ったとあっては　武士の品位を傷つける　俺はむしろ品位という名の下に人を軽蔑する快感にひたるくせがあった

支那の孔子や孟子という
偉い人も食物やお金のこと
でいい争いをするのは大人
ではないと教えている　俺
はなるべく「論語」の趣旨
に逆らうまいとした（それ
が当時のインテリの常識と
いうやつだった）

しかし　生理的に空腹の不快
感は耐えられなかった
そこへ　第三回目のぼたもち
が現われた

おい
親父
こっちだ

ぼたもちを　また　うばわ
れやしないかという恐怖心
は壮絶な一言となって
俺の口をついて出た!!
武士に対して
失礼では
ないかーッ

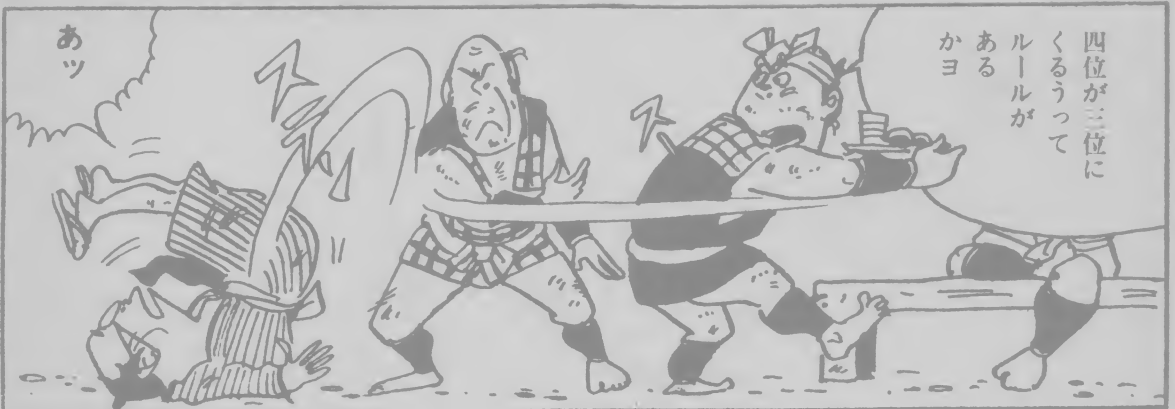
主人(しゅじん)ッ
ぼたもちは こちらへ
スタッ

おいおい こちとらァ 三皿注文 してんだぜ

一二三位 独占だ
でも あと品切れで………

四位が三位に くるうって ルールが あるかヨ
あッ

パクッ

あっ
ぼたもちは もう品切れなのに 敵は一つ食べてしまった

剣豪として上品に
ぼたもちを口に入れること
は絶望となった
というよりは胃袋の
至上命令のほうが強かった
いまだ健在である二つの
ぼたもちに俺は襲い
かかった

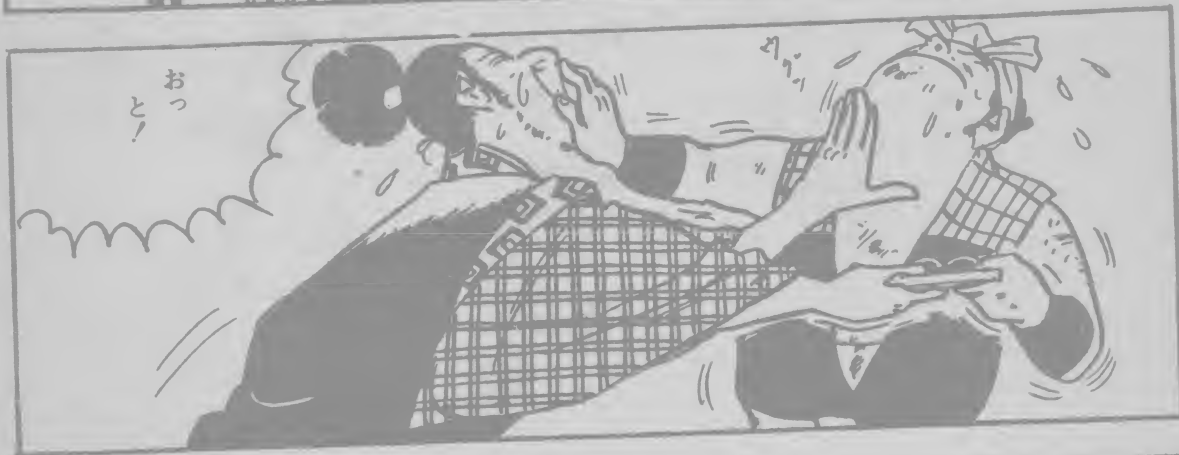
ヤヤッ

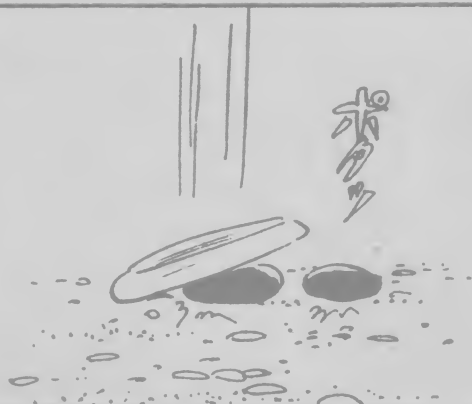
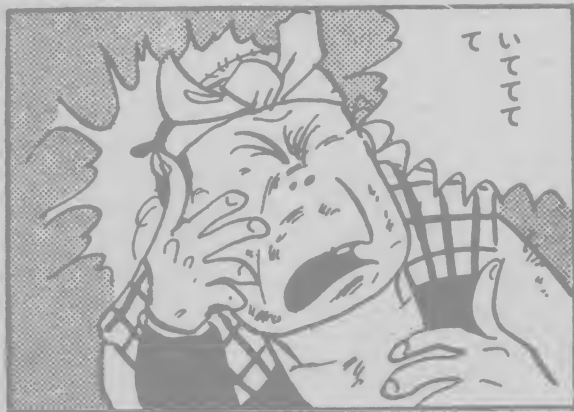
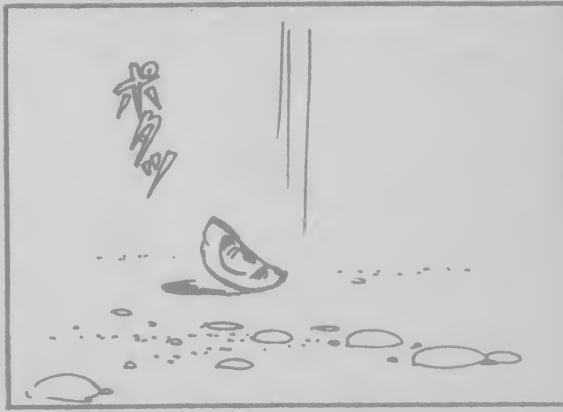
おのれっ

あっ
?

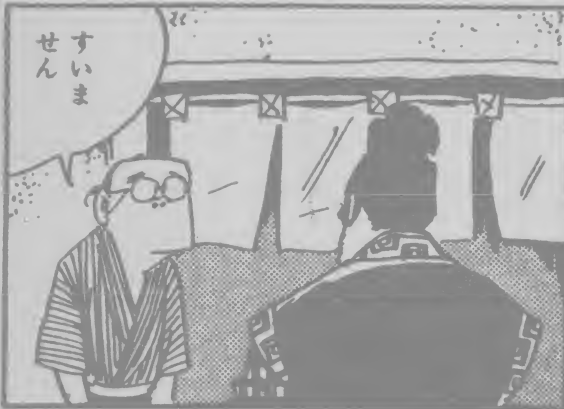
おっと
ウグッ
しつこいやつだな

おっと!

ぼたもちを求める欲求がお互いに生物同士として互角であったのだろう相手もゆずらなかった
おとなしく出せッ

満腹の人間には理解しかねる　はげしいぼたもちのうばいあいは口の中に一つも入らないままに大地にたたきつけられてしまった

ボタッ

もう食べられないという絶望感はオレのイカリを爆発させた

俺は一刀のもとに相手の
片耳を切り落とした
空腹のいかりも加わって
見世物として相当な迫力
のあるものとなったであ
ろう

どうぞ

すいま
せん

俺は大勢の群衆にみられ
ながら　武士としてのいげ
んを保ちつつ　ぼたもちを
たいらげて　金を払うのも
わすれて立ち去った

俺は石をけりながら
考えた

雲助と剣豪……
そこになんの変わりがあるだろう

腹がへれば雲助でも剣豪でも 同じ動作をする……
いや剣豪だけではない 大名でも お姫様でも同じことだ

生きとし生けるものの飢えの苦しみは 同じことではないか……

俺ア雲助の耳を切ったことがくやまれてならない

そして…剣豪というものは　いくばくかのエサをもとめて
格闘する猫のようなものにすぎない　剣とはしょせん
そんなものだ……

武蔵は苦笑した……

完